

令和 2 年 5 月 14 日現在

機関番号：30107

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03121

研究課題名(和文) ポストスターリン期のソ連における選挙と民意 その理念と実態

研究課題名(英文) Elections and public opinion in Post-Stalin's USSR: Ideal and actual situation

研究代表者

松戸 清裕 (MATSUDO, Kiyohiro)

北海学園大学・法学部・教授

研究者番号：10295884

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：ポストスターリン期のソヴェト政権は、民意を常に意識していた。人々の同意の調達によって、国力の増強と生活水準の向上を目指したのである。ここで重要な役割を果たしたのが選挙だったことを実証的に描き出した。一党制だったにもかかわらず、ソヴェト政権は一貫して選挙を重視していた。とりわけポストスターリン期には、一党制を続けるための新たな正統性を獲得するためにも、選挙を通じた人々の理解と同意の調達、喫緊の課題解決への人々の参加を必要としたのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

強大な権力を持つと考えられたソヴェト政権も、民意を常に意識し、人々の同意を必要としていた。人々の理解を求め、同意を調達するために、政権交代の可能性のない一党制だったにもかかわらず、ソヴェト政権は一貫して選挙を重視していた。このことは、あらゆる体制における民意の重要性を改めて確認させる事実である。この事実は、民意が常に正しいとは限らないという事実とともに、自由民主主義が危機にさらされているとも言われる今日において、改めて意識する意味があるだろう。

研究成果の概要(英文)：The Soviet government after Stalin was always aware of public opinion. In order to strengthen national power and improve the standard of living, it was necessary to raise people's consent. For this purpose, the elections played an important role. Despite the fact that it was a one-party system, the Soviet administration consistently emphasized on the significance of the elections. Especially in the post-Stalin period, in order to acquire the new legitimacy of the one-party system, it was necessary to raise people's understanding and consent through elections and to make them participate in solving urgent problems.

研究分野：ソ連史

キーワード：ソ連 民主主義 選挙

## 1. 研究開始当初の背景

本研究課題を申請するまでの10年ほどの間に本研究者は、スターリン死後のソヴェト政権が人々と社会に依拠して生活水準の向上を実現しようとしたことを論じ、行政区画の拡大再編によって住民の生活に支障が生じ、住民が行政に苦情や要望を伝えたのに対し、行政もこれに応じようとしたこと、その際には社会の力が活用されたことを論じた。

この過程で本研究者は、政権は国家と社会の「協働」を重視していたこと、社会は政権に支配された単なる客体だったわけではなく主体的な役割も果たしていたことについての心証を抱いた。この心証に基づき、1950～1960年代の重大な政治課題だった犯罪との闘いに注目して国家機関と社会団体の「協働」の実情を描いたことで、国家と社会の関係、政権と民意の関係をより広く解明する必要性を痛感した。

また、これらの研究と並行して本研究者は、ソ連史全体を捉え直す著作に取り組む機会を得た。この作業によって、国家と社会の「協働」の重視、そのために人々の理解と協力を得ようとする政権の努力、それと関連した政権と人々の対話の存在などをポストスターリン期のソ連の特徴と捉えることができるのではないかと改めて感じた。

他国の政権と較べれば相当に包括的で強力だったはずのソヴェト政権が、何故それほど民意を意識し、人々の同意の調達と政策遂行への参加を必要としていたのかは解明されるべき課題であり、この課題と関連して本研究者はとりわけ、ソヴェト政権が何故あれほどに選挙を重視したのかに関心を抱いた。

一党制で競争選挙が存在しなかったソ連の選挙の意味は軽視されており、選挙に注目した研究はほぼ存在しないと言ってよい状況であった。ソヴェト政権が何故選挙を重視していたのか、そのために政権はどのような取り組みをしていたのか、政権の求めた機能を実際に選挙は果たしていたのかなどの点の実証的解明に引き続き取り組むことは、ソ連史像をより実態に近いもの、そしてより豊かなものとするであろうと考えたのである。

## 2. 研究の目的

上述のように、ポストスターリン期の政権は、民意を常に意識し、民意を汲みとることを通じて人々の同意の調達と参加を図り、国力の増強と生活水準の向上を実現しようとしていた。ここで重要な役割を果たしたのが選挙である。一党制で競争選挙がおこなわれなかったため軽視されがちであるが、ソヴェト政権は一貫して選挙を重視していた。

本研究は、選挙に注目して政権と民意の関係を描き出し、一面的となりがちなソ連史像をより実態に即した豊かなものとすることを目指すものであった。

## 3. 研究の方法

本研究の方法は特に目新しいものではなく、史料の渉猟と解釈・再解釈を重ねて、実証的に問題解明に取り組もうというものであった。

その際に意識したのは、ソヴェト政権と共産党にとっての民主主義と民意の意味を再検討すること、選挙という政権にとっての「試験」と生活水準向上のための取り組みの関係、この「試験」での「合格」を目指すソヴェト政権の取り組みを実証的に描き出すこと、選挙キャンペーンを中心とする政権と人々、国家と社会の間の合意形成の取り組みについて実証的に解明することであった。

史料を渉猟するとともに、史料を読みつつ当時の状況についてのイメージを膨らませ、歴史像を描き出すため、2016～2018年度の3年間は9月と3月の2度ずつ、最終年度の2019年度は10月にモスクワへ出張し、ロシア連邦国立文書館で国家機関の文書を閲覧した。

#### 4．研究成果

ポストスターリン期のソヴェト政権は、民意を常に意識していた。人々の同意の調達によって、国力の増強と生活水準の向上を目指したのである。ここで重要な役割を果たしたのが選挙だったことを実証的に描き出した。

一党制だったにもかかわらず、ソヴェト政権は一貫して選挙を重視していた。とりわけポストスターリン期には、一党制を続けるための新たな正統性を獲得するためにも、選挙を通じた人々の理解と同意の調達、喫緊の課題解決への人々の参加を必要としたのである。

このため、ソヴェト政権は、ソ連最高会議から最末端の村ソヴェトに至るまでのすべての環の毎回の選挙に膨大な資源と労力を注ぎ込んでいた。より良い人物を代議員に選出すること、選挙キャンペーンを通じて共産党とソヴェト政権の政策を周知し、人々の生活が改善していると感じさせて人々の理解と同意を取りつけること、この過程で人々の不満や要求も汲み取って「自分たちの国、自分たちの政権」と人々に意識させること、これらによってソヴェト国家の直面する喫緊の課題の解決に人々を参加させることをソヴェト政権は求めたのである。

このように、強大な権力を持つと考えられたソヴェト政権も、民意を常に意識し、人々の同意を必要としていた。このことは、あらゆる体制における民意の重要性を改めて確認させる事実である。この事実は、民意が常に正しいとは限らないという事実とともに、自由民主主義が危機にさらされているとも言われる今日において、改めて意識する意味があるだろう。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 松戸清裕	4. 巻 55巻2号
2. 論文標題 ソ連社会主義の経験	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較経済研究	6. 最初と最後の頁 71 - 83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松戸清裕	4. 巻 -
2. 論文標題 冷戦と平和共存・平和競争	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『ロシア革命とソ連の世紀3 冷戦と平和共存』	6. 最初と最後の頁 1-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松戸清裕	4. 巻 -
2. 論文標題 統制下の「自由」 スターリン後のソ連における社会生活の一面	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『ロシア革命とソ連の世紀3 冷戦と平和共存』	6. 最初と最後の頁 143-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松戸清裕	4. 巻 10
2. 論文標題 ソヴェト民主主義という実験 もう一つの民主主義の経験から学び得ることはないのか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 169-187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松戸清裕
2. 発表標題 ソ連という実験
3. 学会等名 第36回冷戦研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松戸清裕
2. 発表標題 ロシア革命とソ連の世紀
3. 学会等名 第57回比較経済体制学会全国大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松戸清裕
2. 発表標題 ソ連 革命百年の評価
3. 学会等名 日本ジャーナリスト懇話会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 松戸清裕責任編集	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 302, 10
3. 書名 ロシア革命とソ連の世紀 3 冷戦と平和共存	

1. 著者名 松戸清裕	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 400
3. 書名 ソ連という実験 国家が管理する民主主義は可能か	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----